



064号(2022年1月28日)

目次

新年のご挨拶

「オンライン・一日研修」開催のご案内

「第3回オンライン講座『日本の協同学習』」開催のご案内

『協同と教育』への投稿募集中

各地の研究会・勉強会

出版情報

新年のご挨拶

新年あけまして、おめでとうござい
ます。

この新しい一年が会員の皆さんに
とって幸多からんことを祈念します。

*

2020年の春に始まった新型コロナ
ウイルスによるパンデミックも、2回のお
正月をはさみ足かけ3年になります。
2021年の秋頃から日本国内の感染
者数は激減して、このまま終息に向
かってもらいたいものと淡い期待を
持ったものでした。しかし、それもつ
かの間、感染力が強いオミクロン株
が世界中で猛威を振るっています。日
本でも感染拡大が危惧される状況が
続いています。お互い気をつけたいも
のです。

「明けない夜はない」といいます。
今回のパンデミックも間違いなく近い将
来、終息するでしょう。そのときに備え、
夜明け前のいま、私たちは何をすべ

きをしっかりと考え、着実に実践す
ることが肝要かと思えます。その際、
今回のパンデミックによって社会の様
相が一変したことを厳格に受けとめる
べきでしょう。コロナ前のあの時代を
懐かしむことはできても、戻ることは
できません。

本学会も同様です。コロナ後の新
しい時代においても、本学会の目的
「互恵的な信頼関係を基盤とした協
同に基づく教育・学習環境の創造・
実践・普及を通し、民主社会の健全
な発展に寄与すること」をいかに達
成すべきか。コロナにより社会が一変
したこの時期だからこそ、もう一度、
学会が総力をあげて取り組むべき喫
緊の課題といえます。パンデミックが
終息したので、以前と同様に、学会
を運営し、全国大会やワークショップ
を開催すれば事足りるというものでは
ありません。コロナ後の新しい時代を見
据えた学会運営のあり方を、会員の
叡知を集め、今一度検討する時だと
思います。

その際、もっとも大きな課題は会員
相互の交流をいままで以上に活発に
することです。本学会の特徴の一つ
に会員の専門性の多様性があげられ
ます。この多様性を最大限に活用す
ることにより、学会を動かす強力なエ
ネルギーを得ることができます。そのた
めに、どのような仕掛けを創るべきか。
理事会や委員会のあり方も含め、す
べての学会活動を、前例にとらわれ
ず、再度検討することがあってもよい

と思います。

折しも、今年は本学会の役員改選
の時期にあたります。学会設立当時
から中心的な役割を担ってきた先生方
も高齢となりました。幸いにも、本学
会には次代を担っていただける若くて
活力があり有為な会員の皆さんがたく
さんおられます。新しい時代には新し
い人材が必要です。新しい体制で、
本学会がさらに飛躍することを願っ
ています。

*

初代会長として仲間と共に学会立
ち上げに奔走した頃を懐かしく思い出
します。自分たちが切望する価値の
実現に向け、新しいものを創ることの
喜びに突き動かされていたと思いま
す。多くの皆さんとのご縁に支えられ、
皆さんと共に、今日の基盤づくりに少
しばかり貢献できたのかなと思うこと
もあります。

諸般の事情により、2019年の秋に
会長として再登板したとき、私の役割
は世代交代を促すことだと考えていま
した。むろん、コロナなど微塵も頭に
ありませんでした。コロナによるパン
デミックはまったく不幸な出来事ですが、
世代交代の必要性を積極的に考える
きっかけになったと思います。より望ま
しい形での世代交代が実現できるよ
う、皆さんと共に考えていきたいと思
います。

今年もよろしくお願いたします。

2022年1月1日

日本協同教育学会会長 安永悟

JASCE

「オンライン・一日研修」開催のご案内

学会主催ワークショップ（ベーシック・アドバンス・マスター）を実施できないまま、もうすぐ2年になります。この間、オンライン協同学習カフェやオンライン講座にて「ベーシックを開催してほしい」というご意見を多数いただきました。そこで研修委員会では、オンラインによる「ベーシック」実施に向けて検討を重ねてきました。その結果、次年度の「オンライン・ベーシック」開催に向け、今年度は「オンライン・一日研修」を試行的に実施することにしました。一日研修とは「協同学習の基礎的な考え方や技法を学びたいと考える方への導入プログラム」です（学会HP）。この「オンライン・一日研修」の実施を通して受講者の皆さまから多くご意見をいただき、「オンライン・ベーシック」の実施につなげたいと考えています。そこで今回は無料での開催とします。皆さまの参加をお待ちしております。

オンライン・一日研修

- 2022年2月12日（土）9時～16時15分
- 講師：安永 悟
（久留米大学、日本協同教育学会 会長）
- 運営：研修委員会

日本協同教育学会HPから申し込み
(2/5 24時締切)
学会員でなくても参加可、参加費無料

申込サイトに詳しい説明資料あり

「第3回 オンライン講座『日本の協同学習』」開催のご案内

2021年6月より、オンライン講座『日本の協同学習』を開催し、2019年に会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』をテキストとして、学び合う機会を提供しています。おかげさまで、第1回（第13章：日本協同教育学会15年の歩み）には45名、第2回（第1章：バズ学習を源とする協同学習の理論的、実践的展開）には62名の参加がありました。テキストをご準備いただければ、未会員の皆さまの参加も大歓迎です。

第3回は、第2章（個集研と協同学習）です。皆さまの参加をお待ちしております。



第3回 オンライン講座『日本の協同学習』

- 2022年2月26日（土）14時開会
- 第2章（個集研と協同学習）
話題提供：高旗浩志（岡山大学）
（日本協同教育学会 副会長）

日本協同教育学会HPから申し込み
(2/19 24時締切)
学会員でなくても参加可、参加費無料

申込サイトに詳しい説明資料あり

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています（次号は第17号です）。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

各地の研究会・勉強会

（関東地区）

協同教育カフェ in Tokyo

◇協同教育カフェ in Tokyo では、1月30日13時～15時、創価大学教育学会主催の第20回教育研究大会で自主シンポジウムを開きます。テーマは「ウィズ・コロナ、アフター・コロナの学校における協同学習の必要性～小学校・中学校の実践から～」、話題提供者は、最首昌和・小畑伸一・田中光夫、司会進行は関田一彦です。ご関心のある方は次のZoomアドレスからアクセスしてください。

<https://us02web.zoom.us/j/84488257852?pwd=S0dNcWpxMmpic2hrYVlqTUdiOHhBUT09>
ミーティングID: 844 8825 7852
パスコード: 743855

（大阪地域）

協同学習を用いた看護教育研究会

◇皆様、新年明けましておめでとうございます。

本研究会は、今年も1月より隔月で

JASCE

開催して参ります。宜しくお申し上げます。1月は、関西地区のト部先生・重年先生・堀川先生の企画で1月29日(土)14:00~16:00にzoomで行います。今回のテーマは「協同学習(LTD-NP)を用いた臨地実習の最終カンファレンスの方法」です。実践報告は、堀川真知子先生が母性看護学実習でLTD-NPを用いた事例をご発表なさいます。皆さんと有意義なディスカッションをしたいと思います。すでにGoogleフォームで参加申し込みを受け付けておりますが、初参加での参加ご希望の方は代表(緒方)のアドレスにお申し込みください。

連絡先:研究会代表 緒方巧(梅花女子大学 t-ogata@baika.ac.jp)

(岡山・中国方面) 協同学習研究会

◇次回は2022年3月5日(土)を予定しています。改めてご連絡致します。

連絡先:高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター takahata@okayama-u.ac.jp)

(九州地域)

協同教育研究所「結風」主催

◇第54回・協同教育研究会を1月22日(土)にZoomにて開催しました。ガーゲン研究会との共催です。主催者の安永悟先生が「再考:集団と個の関係」について話題を提供した後、鮫島輝美先生(京都光華女子大学)が「私的な能力から関係による学びへ:社会構成主義がひらく教育の可能性」と題した講演を行いました。ケネス・ガーゲン著『関係からはじめる:社会構成主義がひらく人間観』を踏まえ、私たちがどのよ

うな学びを創造できるかについて、活発な対話が行われました。

問合せ先:ご不明な点があれば、次までお願いします。

協同教育研究所「結風」office@yasunaga.me

(全地域)

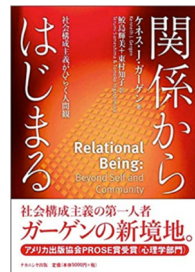
全国看図アプローチ研究会

◇「全国看図アプローチ研究会研究誌-10号」を公開しました。

<https://kanzu-approach.com/journal/journal-vol.10.pdf>

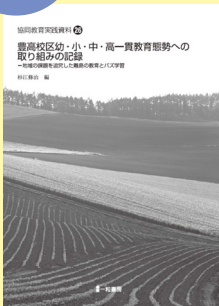
掲載論文

1. 中国における看図作文授業の改善-日中教育比較を通して-(仇志美)
2. 看図アプローチを活用した5歳児のおはなしづくり(福永優子)
3. 多職種連携教育プログラムの開発-「看図アプローチ」で子どもと保育と看護をつなぐ-(山下雅佳実)
4. 編集後記(鹿内信善)・奥付



出版 情報

協同教育実践資料No.26『豊高校区幼・小・中・高一貫教育体制への取り組みの記録 -地域の課題を追究した離島の教育とバス学習』



豊高校区は、瀬戸内海のほぼ中央部に連なる芸予諸島のさらに中央部に位置する諸島からなる地域(豊浜町豊町)にありました。現在、両町は呉市に組み込まれています。本書は、この高校区のすべての幼稚園から小学校、中学校、高校が、地域の教育課題に応えるべく一貫教育態勢を敷いて取り組んだ1977年から1984年までの資料を編纂したものです。地域の教育課題

を追究し、子どもたち一人ひとりの巣立ちを支えるための教師たちの真摯な取り組み事例から、私たちは多くを学ぶとすることができます。当時の資料の多くはガリ版刷りでした。研修会での指導案、学校単位で出された研究紀要等の内容を、杉江先生自身が筆写し、データ化されています。

杉江修治編。一粒書房。詳細は学会HP「出版物案内」をご参照ください。